



大 自 然 × ビジネス



〉 ワクワクがギッシリ! 〈
〉 自然資源の宝庫が 〈
〉 キミを待っている!! 〈

LET'S OPEN!!

農 東京農業大学

生物産業学部 (北海道オホーツクキャンパス)

自然資源経営学科





自然資源

natural resources

例えば農作物、野生動物、
山、川、湖、海、流水、景観
鉱物、自然エネルギー
など

人間生活や社会にとって、健全な自然生態系や環境を維持することで、
農業をはじめとする第一次産業（漁業・林業）や関連産業（食や観光）が成立している。

**当学科では、大地・森・海などの自然資源を活かして
環境共生と地域ビジネスを実践的に学びます**

農大で唯一
「経営学士」の
学位を授与

【オホーツクで自然資源経営学を学ぶ意義】

1

良質な自然環境と
自然資源の存在

2

経営基盤に優れた1次産業、裾野の広い生物産業ビジネス
(自然→生産→加工→流通→ビジネス)

3

フィールドワークで
実践的に学べる環境

ここには自然環境、生産から商品開発・販売までビジネスモデル全体をリアルに体験できる学びのフィールドがある!!

自然資源経営学科 学びの実例

学生の実践的学びやチャレンジを教員、地域企業で応援・サポート

Example
01

オホーツクにおける
エゾシカの活用を学ぶ

エゾシカ増加による農林業被害や生態系への負の影響が問題となっています。そのため年10万頭が捕殺。しかし、その多くは有効活用されていません。エゾシカを地域資源としてどう地域活性化につなげるのか? を現場での体験から学びます。



鹿牧場でのエサやり体験



エゾシカ捕獲の仕掛け罠の中に入る様子



狩猟したエゾシカの搬出体験



エゾシカの養鹿と加工品開発に取り組む知床エゾシカファームの見学

着眼点

環境保全+新たな地域ビジネスの創出

エゾシカの
頭数管理

エゾシカの
有効利用

エゾシカの養鹿
ビジネスの創出

地域資源の価値の見直しを通じて、
新たな地域ビジネスを創出する

Example
02

農林水産業を元気にする
ビジネスモデルを実践的に学ぶ

経営基盤に優れた第1次産業が展開するオホーツクでは、6次産業化ビジネスを学ぶための現場とのネットワークが充実しています。農業体験はもちろんのこと、創業者からレクチャーを受けたり、ビジネスプランや販路拡大の方策を考えたり、地域の課題解決を通じて実践的に学んでいきます。



農業ビジネスの創業者から
直接レクチャー



研修先で6次産業化の
ビジネスプランを考える



酪農体験実習もサポートが
充実しています



漁業者の商品の販路拡大策を
一緒に考える

着眼点

大学で学んだことを、実際に様々な生産現場を
訪れ、実習・ワークショップ等で実践することで、
ビジネスの発展や地域活性化につなげる
ノウハウを学ぶ

実学主義の休閑

Example
03

体験型観光を通じて
エコツーリズムを学ぶ

豊かな自然に恵まれているオホーツク地域には、希少な野生動物や植物が多く生息しています。自然資源経営学科では、網走でホエールウォッチングを体験したり、世界遺産の知床でネイチャーガイドを体験したりしながら、エコツーリズムを通じた地域活性化を学びます。生きものの生態や観光に関する経営の知識を身につける必要があるため、文理融合型の学びといえるでしょう。



ホエールウォッチングの様子



クジラが海面まで上がってきて
呼吸をしている



知床にある
カムイワッカ湯の滝を歩く



応急措置を学ぶ

着眼点

エコツーリズムを展開することで、
人間と自然と生きものとの共生を図りつつ、
地域の活性化を実現する



持続可能なビジネス創出と
地域経済の活性化を目指す

2分野・4つの研究室

ネイチャーマネジメント分野

自然資源を活用し、持続可能で環境に配慮したツーリズムを含むビジネスを通じて、地域活性化を研究する分野

環境情報研究室

環境情報を活用し、持続可能な社会づくりを探究

北海道オホーツク地域は、世界自然遺産・知床をはじめとする豊かな自然環境が世界中の人々を魅了しています。この豊かな自然環境の保全と活用を考えることは、持続可能な社会づくりにつながっています。しかし自然、経済、社会は相互に関連しており、SDGsとして国際社会共通の課題となっています。本研究室では、自然資源の価値の可視化や地域企業の環境経営の分析など、環境情報を活用して持続可能な社会づくりの実現に向けた研究に取り組んでいます。

想定される卒業論文テーマ

- 湧沸湖および藻琴湖流域における土地利用変化に伴う生態系サービス評価に関する研究
- CVMによる「ゼニガタアザラシと地域の共生」に対する経済的価値評価



渡り鳥が訪れる湖の環境評価



アンケート調査で観光客に情報収集

地域観光研究室

豊かな自然を活用した農林水産業と観光の連携を学ぶ

自然資源を活かしたツーリズムは、観光客に大きな感動を与えると同時に、地域活性化にも寄与します。また、北海道オホーツク地域は、豊富な自然資源をベースとした農林漁業が展開されています。さらに農林漁業の魅力を地域内外に周知したり、地域の担い手の確保に向けた取り組みとして、各地においては農林漁業と観光の連携によるグリーンツーリズムやマリンスーツの推進に力を入れています。

本研究室では、自然環境と調和したツーリズムビジネスの創出の他、農林水産業と観光の連携に関わる研究を通じて、地域活性化に役立つ取り組みを実践します。

想定される卒業論文テーマ

- 知床の自然保護と観光振興の両立
- 道の駅による観光振興におけるニューツーリズムの推進



観光船とホエールウォッチング



知床でのツーリズム実習

地域マネジメント分野

地域資源を活用し商品開発や事業化を通じたビジネス創造により地域産業の発展を研究する分野

企業経営研究室

地方創生に向けて企業の持続的な発展のポイントを追究する

地方創生に向けては経済社会の根幹を担う企業の持続的な発展が不可欠です。そのためには、地域資源を活かした商品開発のみならず、地域連携（都市と地方の連携）や異業種連携などの戦略が必要となります。そして、その戦略を立案するためには、企業の商品開発から流通、マーケティングに至る一體的な取り組みを論理的に理解することが必要です。

本研究室では、企業の持続的な発展に向けて、地域資源を活用した新商品開発や異業種連携、地域連携といった地方創生に向けた戦略や発展のためのポイントを追及します。

想定される卒業論文テーマ

- 持続可能性からみた北海道オホーツク地域の木材加工業の現状と課題
- エゾシカ皮を利用した事業規模拡大の可能



企業と取り組む商品開発



異業種連携によるワークウエアの開発

農業創生研究室

農林水産業における持続的な経営展開の方策を考える

農林水産業においては担い手不足が深刻化しており、持続的な経営の展開に向けて、従来の農林業の枠にとらわれない新たなビジネスモデル（観光農園、農家レストラン・カフェ、輸出など）の創出や安定的な経営が展開できる経営者の育成が求められています。

本研究室では、持続的な発展が可能な農林漁業の経営者育成と農林漁業をベースとした新たなビジネス創出や起業、地域の経営者、人材育成に関する研究を行っています。

想定される卒業論文テーマ

- 中山間地域における持続可能な農業と内発型地域活性化に関する調査研究
- 地域における新規就農支援の重要性に関する研究



広大な圃場での農業実習



農家レストランでの講話



農 東京農業大学 北海道オホーツクキャンパス

生物産業学部 自然資源経営学科

〒099-2493 北海道網走市八坂196番地



ACCESS

女満別空港まで 札幌から 45分
東京から100分
名古屋から110分

網走駅よりバスで30分
女満別空港より車で20分

東京農業大学北海道オホーツクキャンパス 入学センター

TEL 0152-48-3814 FAX 0152-48-2246

E-mail nyushi01@nodai.ac.jp

自然資源経営学科ホームページ

https://www.nodai.ac.jp/academics/bio/o_bus/



HP



Instagram



Facebook